

1946 : DEPOSIT FREEZE : CURRENCY RESET

## 戦後の新円切替と金融緊急措置

---

1946年、国民の預金が凍結され、旧紙幣が無効化された。国家が個人の資産を一夜にして奪いうるという、日本人が経験した歴史的事実。

---

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

WHAT HAPPENED

## 敗戦と超インフレ --- 1945-46年

1945年8月15日、日本は敗戦を迎えた。経済は壊滅状態にあった。

戦時中に膨大な軍事費を賄うため、政府は日本銀行に国債を引き受けさせ、紙幣を大量に発行していた。戦争終結時、市中に流通する通貨量は戦前の4倍以上に膨張していた。

一方で、生産設備は破壊され、物資は極端に不足していた。お金はあるのに買うものがない。古典的なインフレの構造だ。

1945年から1946年にかけて、物価は年率300%を超えるペースで上昇した。国民の貯蓄は、数字の上では残っていても、実質的な購買力は急速に失われていった。

---

THE MEASURE

## 金融緊急措置令 --- 1946年2月

1946年2月16日夕方、政府は突然「金融緊急措置令」と「日本銀行券預入令」を発令した。翌2月17日から施行という、事実上の奇襲だった。

その内容は衝撃的なものだった。

— 旧紙幣の無効化 ---

現行の日本銀行券（旧円）は期限付きで無効とされ、新しい紙幣（新円）に切り替えられた

— 預金封鎖 --- すべての金融機関の預金が封鎖され、引き出しに厳しい制限が設けられた

— 引き出し制限 --- 世帯主は月額300円、家族は1人100円までしか引き出せなかった

国民は自分のお金を自由に使えなくなった。文字通り一夜にして。

---

REALITY

## 預金封鎖の実態

預金封鎖の目的は表向き「インフレの抑制」だった。市中の過剰な通貨を回収し、物価上昇を食い止めるという論理だ。

しかし、もうひとつの隠された目的があった。それが「財産税」の課税基盤の把握だ。

預金を封鎖することで、国民の金融資産を正確に捕捉できる。封鎖された預金口座の残高が、そのまま課税対象の把握に使われた。

預金封鎖の期間中、物価は引き続き上昇した。月300円の引き出し制限は、インフレが進むにつれて実質的にさらに厳しくなった。封鎖期間は当初3ヶ月とされたが、段階的に延長され、完全な解除は1954年まで続いた。

---

#### PROPERTY TAX

### 財産税の課税 --- 最高税率90%

1946年11月、「財産税法」が施行された。預金封鎖で捕捉した国民の資産に対して、累進税率で課税するものだった。

- 課税対象：個人の全財産（預金、不動産、有価証券、貴金属、美術品など）
- 税率：10万円超の資産に対して25%から始まり、最高税率は90%
- 1,500万円を超える資産には90%の税率が適用された

これは事実上の資産没収だった。

政府の戦時債務（国債）を、国民の資産で清算したのだ。戦争のツケを、預金封鎖と財産税という形で国民に転嫁した。

国債は「国の借金」と言われるが、返済するのは国民だ。1946年の日本は、それを最も直接的な形で証明した。

---

#### WHY IT WAS NECESSARY

### なぜこの措置が必要だったか

戦後の日本政府には、選択肢がほとんどなかった。

戦時中に積み上がった膨大な国債と軍需補償の債務。生産力の壊滅。占領下という政治的制約。これらが同時に存在する中で、財政を再建する方法は限られていた。

- 増税による財政再建 --- 経済が壊滅状態の中で通常の増税は不可能だった

— ハイパーインフレによる債務の実質的消滅 --- これは統制不能になるリスクがあった

— 預金封鎖+財産税 --- 強制的に資産を再配分し、財政を清算する直接的な手段

政府は三番目の選択肢を取った。極端な措置だったが、ハイパーインフレの暴走を防ぎ、財政基盤を作り直すためには、避けられない判断だったとも言える。

---

#### WHAT CHANGED

### 何が変わったか

国民の金融資産が事実上リセットされた。戦後の経済復興は、このゼロリセットの上に築かれた。

預金封鎖は「国家が個人の資産を凍結できる」という歴史的事実を刻んだ。

---

#### LEGACY

### 今に残っているもの --- 資産分散の歴史的根拠

新円切替と預金封鎖は、日本の金融史における最も劇的な出来事のひとつだ。この経験は、複数の構造的教訓を残している。

— 国内の金融資産だけに依存する危険性 --- 預金封鎖は国内の金融機関に預けた資産のみを対象とした

— 不動産・実物資産の相対的な強さ --- 預金は封鎖されたが、土地や建物は直接凍結できなかった

— マイナンバー制度との関連 ---

資産の捕捉は、現代においても税制・社会保障の基盤として進められている

— 国債残高の意味 ---

日本の国債残高がGDP比250%を超える現在、「最終的に誰が負担するのか」という問いは消えていない

「あんなことは二度と起きない」と断言できる根拠は、実はどこにもない。

預金封鎖は80年前の出来事だ。しかし「国家は法的に個人の資産にアクセスできる」という構造は変わっていない。資産を複数の形態・地域に分散させる理由は、歴史の中にある。

---

#### FOR INVESTORS

## 投資家にとっての意味

新円切替の歴史が投資家に教えることは、一つの明確な事実だ。

国家は、非常時には個人の資産を凍結できる。

- 銀行預金は、法的には銀行への「貸付金」だ。銀行が破綻すれば、預金保険の範囲（1,000万円＋利息）を超える部分は保護されない
- 資産クラスの分散（預金・株式・不動産・金・外貨）は、特定のリスクへの集中を避ける基本原則
- 地理的分散（国内と海外）は、一国の制度リスクに対するヘッジとなる
- 現在の日本の財政状況（GDP比250%超の国債残高）は、1945年当時とは条件が異なるが、財政の持続可能性という問いは依然として残っている

歴史を知ることは、最悪のシナリオを想定する力を与える。そしてその想定が、資産配分の合理的な根拠になる。

---

### KEY TERMS

## 関連用語

### 金融緊急措置令

1946年2月に発令された、預金封鎖と新円切替を定めた緊急勅令

### 預金封鎖

金融機関の預金引き出しを制限・禁止する措置

### 新円切替

旧紙幣を無効化し、新紙幣に強制的に切り替えた通貨改革

### 財産税

個人の全資産に対して最高90%の累進税率で課税された臨時税

### インフレーション

物価が持続的に上昇し、通貨の購買力が低下する現象

### 旧円

新円切替により無効化された、切替前の日本銀行券

### 封鎖預金

預金封鎖により引き出しが制限された預金口座

---

投資と思考の書齋

<https://anni-memo.github.io/investment-library/>

投資は自己責任です。このサイトの内容は情報提供を目的とし、投資助言ではありません。